

一般会計歳出（性質別）決算の推移

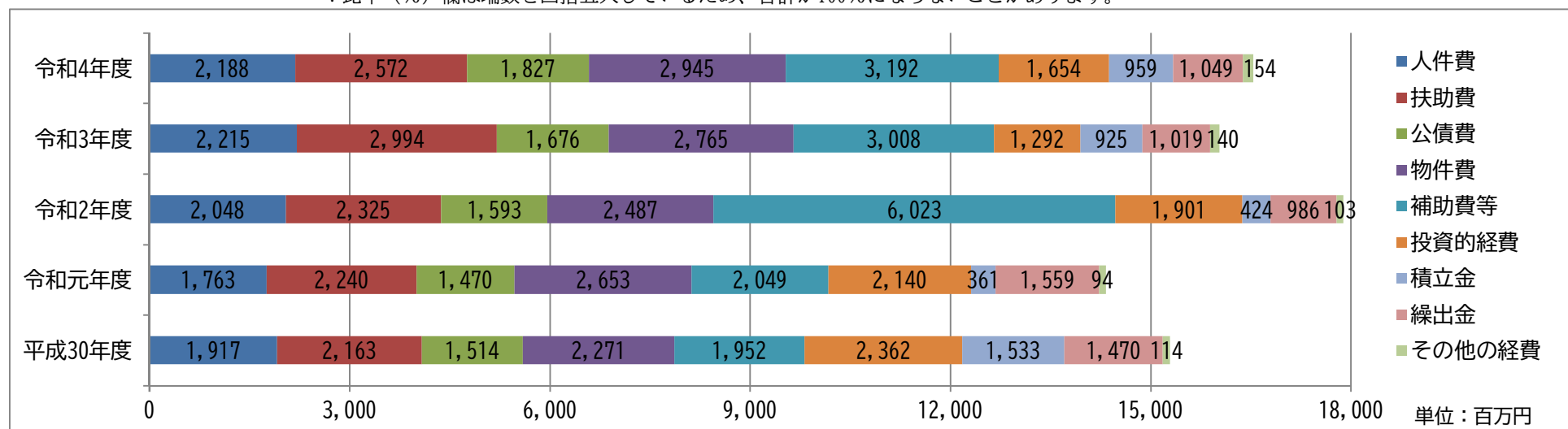
一般会計の歳出（性質別）決算状況について、義務的経費・裁量的経費別に表及びグラフで示しております。

歳出（性質別）決算の特徴、用語の説明も参考にしてください。

（単位：千円）

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
義務的経費	5,593,711	36.6%	5,472,483	38.2%	5,966,514	33.4%	6,884,852	42.9%	6,586,827	39.8%
人件費	1,916,781	12.5%	1,762,836	12.3%	2,048,145	11.4%	2,215,295	13.8%	2,187,852	13.2%
扶助費	2,162,641	14.1%	2,239,800	15.6%	2,325,341	13.0%	2,993,882	18.7%	2,572,134	15.6%
公債費	1,514,289	9.9%	1,469,847	10.3%	1,593,028	8.9%	1,675,675	10.5%	1,826,841	11.0%
裁量的経費	9,702,495	63.4%	8,856,779	61.8%	11,923,099	66.6%	9,149,445	57.1%	9,953,342	60.2%
物件費	2,270,638	14.8%	2,652,906	18.5%	2,486,480	13.9%	2,765,329	17.2%	2,945,426	17.8%
補助費等	1,951,936	12.8%	2,049,257	14.3%	6,023,076	33.7%	3,007,841	18.8%	3,192,128	19.3%
投資的経費	2,362,433	15.4%	2,139,887	14.9%	1,901,149	10.6%	1,291,718	8.1%	1,653,491	10.0%
積立金	1,533,053	10.0%	361,478	2.5%	424,045	2.4%	925,129	5.8%	959,161	5.8%
繰出金	1,470,499	9.6%	1,559,312	10.9%	985,808	5.5%	1,019,126	6.4%	1,048,942	6.3%
その他の経費	113,936	0.7%	93,939	0.7%	102,541	0.6%	140,302	0.9%	154,194	0.9%
歳出総計	15,296,206	100.0%	14,329,262	100.0%	17,889,613	100.0%	16,034,297	100.0%	16,540,169	100.0%

*比率（%）欄は端数を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。



【歳出決算の特徴】

○扶助費は、物価高騰による生活支援や生活困窮者に対する臨時給付金など社会変化に対応した各種事業が増となったものの、子育て世帯への臨時特別給付金支給事業等により、約4億2千万円（14.1%）の減となりました。

○物件費は、ふるさと納税返礼品等に係る経費や市営新体育館及び総合運動場整備事業費等により、約1億8千万円（6.5%）の増となりました。

○補助費等は、チームにらさきエール商品券事業費などの経済、生活支援事業等により、約1億8千万円（6.1%）の増となりました。

○投資的経費は、地区公民館管理運営費、総合運動場管理運営費等により、約3億6千万円（28.0%）の増となりました。

○積立金は、財政調整基金及びその他特定目的基金への積立金が増えたことで、約3千万円（3.7%）の増となりました。

【用語の説明】

義務的経費	市の歳出のうち、支出することが制度的に義務付けられており、任意に削減することが容易ではない経費 ⇨裁量的経費
人件費	市の職員の給料や各種委員の報酬等の経費
扶助費	生活保護、児童手当、医療費助成など住民福祉を支えるための経費
公債費	市債（市の借金）のを返済する元金と利子の償還金
裁量的経費	市の歳出のうち、政策によって柔軟に縮減できる裁量性の高い性質の経費 ⇨義務的経費
物件費	指定管理委託料、光熱水費等の需用費など消費的性質をもつ経費
補助費等	峡北広域行政事務組合や各種団体等への負担金、補助金の経費
投資的経費	道路や水路整備、教育施設整備などの工事等の経費
繰出金	国民健康保険特別会計、介護保険特別会計等の運営を支援する経費
積立金	基金（市の貯金）へ積み立てる経費